

会 議 議 事 録

			記録者	沼崎 智	
供 覧	部長	課長	課長補佐	係長	課員
件 名	平成 27 年度 第 3 回龍ヶ崎市最上位計画策定審議会				
年月日	平成 28 年 1 月 27 日 (水)				
時 間	午後 3 時 00 分～午後 4 時 55 分				
場 所	龍ヶ崎市役所 5 階全員協議会室				
出席者	<p><最上位計画策定審議会委員></p> <p>苦瀬会長 大山副会長 膳法委員 前田委員 (代理：久保田氏)</p> <p>田賀委員 福智委員 副島委員 本多委員</p> <p>石崎委員 石引委員 山崎委員</p> <p>【欠席】 谷口委員 大熊委員</p> <p>川村副市長 松尾総合政策部長</p> <p><事務局></p> <p>企画課：宮川課長 大貫課長補佐 廣田課長補佐 関ヶ原係長 記録者</p>				
	<p style="text-align: center;">開 会</p> <p style="text-align: center;">副市長挨拶</p> <p style="text-align: center;">会長挨拶</p> <p style="text-align: center;">議 題</p> <p style="text-align: center;">(1) まちづくり市民ワークショップからの提言等について</p> <p style="text-align: center;">(2) 龍ヶ崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略について</p> <p style="text-align: center;">(3) 次期最上位計画の骨子 (体系図) 案について</p> <p style="text-align: center;">閉 会</p>				
情報公開	<input type="checkbox"/> 公 開 <input type="checkbox"/> 部分公開 <input type="checkbox"/> 非 公 開	非公開 (一部非公開を含む) とする理由		(龍ヶ崎市情報公開条例第 9 条 号該当)	
		公開が可能となる時期 (可能な範囲で記入)			

発言者	発言の内容
事務局	<p>定刻になりましたので、ただいまから平成 27 年度第 3 回龍ヶ崎市最上位計画策定審議会を開会いたします。本日の審議会は、定数 13 名中、11 名の出席ということで、条例の第 6 条第 2 項で定める過半数の出席がなされておりますので、本会議は成立していることをご報告申し上げます。</p> <p>また、前田委員の代理で、茨城県地域計画課の久保田様をご出席をされておりますので、お知らせをいたします。よろしくお願いいたします。</p> <p>この審議会につきましては、前回同様、公開となっておりますが、本日の傍聴人はいません。</p> <p>それでは、開会に先立ちまして川村副市長よりご挨拶を申し上げます。</p>
川村副市長	<p>皆さん、こんにちは。</p> <p>本日はお忙しい中、最上位計画策定審議会にご出席をいただきまして、厚く御礼を申し上げます。</p> <p>前回の審議会におきましては、現在の最上位計画でありますふるさと龍ヶ崎戦略プラン、そして第 6 次行政改革大綱のこれまでの取組みを振り返りまして、その検証等を通し、次期最上位計画に登載していくべき施策等についてご協議をいただいたところでございます。</p> <p>本日の審議会では事前に資料等をお配りさせていただきましたが、次期最上位計画の骨子となる体系図案をまとめたところでありますので、本日はこれについて、ご審議をいただければと思います。</p> <p>本日も忌憚のないご意見等を頂きますことをお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは続きまして、苦瀬会長からご挨拶をお願いいたします。</p>
苦瀬会長	<p>皆さま、本日はお忙しい中、ご出席をいただきましてありがとうございます。</p> <p>ただいま川村副市長からお話がありましたように、本日は重要な次期最上位計画の骨子となる体系図案に関して協議をしていただきます。最上位計画の骨組みということで大変重要なものだと思います。子育て、教育、様々な分野が盛り込まれているようでございます。</p> <p>皆さま方にはぜひ、活発な忌憚のないご意見をいただきたいと思います。今日はもし時間があれば、順番にご意見を頂きたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>これからの議事進行につきましては、苦瀬会長をお願いいたします。</p>
苦瀬会長	<p>それでは議題に入る前に、本日の審議会の議事録署名人を決めたいと思います。今回は副島委員と山崎委員をお願いしたいと思います。よろしいですか。</p> <p>それでは、議題に入りたいと思います。最初の議題は、まちづくり市民ワークショップからの提言等についてでございます。各委員にも昨年ご案内があったと思いますが、まちづくり市民ワークショップから今後のまちづくりについて提案、提言がなされております。まずは、これについて、事務局よりご説明をお願いいたします。</p>

事務局

それではまちづくり市民ワークショップからの提言についてのご説明をさせていただきます。

まず、このワークショップ自体について少しお話しをさせていただきます。第1回の審議会の際にも、少しご説明させていただきましたが、このワークショップの設置目的ですが、次期最上位計画の策定に当たりまして、その策定方針の1つに、市民とともに考え、市民の声を反映した計画づくりを掲げております。これは、これまで以上に多くの市民の方にご参画いただきまして、市民と行政、市民同士の対話を通じて、その声を計画に反映していくためのものがございます。このワークショップはこのような考えにより設置したものでございます。

ワークショップのメンバーの構成は市民メンバーが9名、流通経済大学の学生1名、そして市職員メンバーが9名で、合計19名の構成となっております。その19名を3グループに分けさせていただいて、市が今後も取り組んでいくべき重要な項目をテーマとして設定させていただきまして、メンバーの皆さんが日常感じていることや様々なアイデアを活かしていただきながら、市民目線のまちづくりの課題そしてその解決方法等について、話し合いをしていただきました。

3つのグループに分けて、Aグループでは子育て・教育環境の充実、市民協働の促進の2つのテーマを設定させていただきました。Bグループでは、知名度とイメージの向上、にぎわいと活気の創出について。Cグループでは、機能的で魅力的な土地利用についてということで、それぞれのグループにテーマを設定させていただきました。

このワークショップは、昨年10月10日に第1回目を開催させていただきました、それから隔週で開催をいたしました。委員の皆さまにご案内をさせていただきましたとおり、12月19日にまちづくり市民ワークショップ提言発表会を開催させていただいたところであり、この発表会も含めまして、全6回の開催でワークショップの運営を行ってきたところでございます。

ワークショップでの協議に当たりましては、各グループに共通いたしまして、まず設定したテーマがAグループ2つ、Bグループ2つ、Cグループ1つございますが、それぞれに関する龍ヶ崎の現状、課題、良いところ、悪いところを洗い出し、次に龍ヶ崎がどのようなまちを目指していくのか、あるべき姿やそれに向けたキャッチフレーズを検討していただいた後、それでは具体的にどのような取り組みをしていくのが良いのかを協議する、そのような流れでワークショップを進めさせていただきました。

それでは具体的にワークショップの各グループの提言内容について、ご説明させていただきます。資料1-1の1ページをご覧ください。最初に、Aグループの提言内容についてでございます。

Aグループでは先程申し上げましたとおり、子育て・教育環境の充実と市民協働の促進、この2つをテーマに協議を行っていただきました。

このテーマでの龍ヶ崎の現状、課題の把握を行い、Aグループでは、今後のまちづくりのキャッチフレーズを「みんなではぐくむ龍の人づくり・地域づくり」と決めまして、その実現に向けて子育て支援では、子育てサポートの充実、それと食を通じた子育てということを考えていただきました。教育の充実では、地域と連携した地域がはぐくむ教育、そして、市民協働の促進では、参加・交流、この2つをキーワードとした市民協働の促進を考えていただきました。具体的取り組みとして、子育てサポートの充実の部分では、ママカフェの設置を、食を通じた子育てでは、龍ヶ崎が誇るコロッケ、トマトを活用した料理作りやコンテストの開催を提案いただきました。

続きまして4ページをご覧ください。地域がはぐくむ教育のところでは、地域と連携した教育ということで、コミュニティスクールの設置、そして流通経済大学と一層の連携を図りまして、大学施設を活用した英会話教室の開催、また市民向けの講座の充実を提案いただきました。市民協働の部分では、若い世代の市民活動への呼び込み、地域と市民団体との交流促進のための取組みを提案いただきました。

次にBグループの提言内容です。7ページをご覧ください。Bグループについては、地域の知名度とイメージの向上、賑わいと活気の創出をテーマに協議を行っていただきました。

9ページをご覧ください。Bグループでは今後のまちづくりのキャッチフレーズを「魅力再発見、市民が誇りに感じる龍のふるさとづくり」と決めまして、その実現に向けて、龍ヶ崎コロッケを代表とするローカルフードのブランド力向上と更なる進化、若い人から家族向けまでみんなで楽しめる龍ヶ崎のコンテンツの充実、そして最後に龍ヶ崎を全国区に押し上げる情報戦略づくりということで、3本の重点項目を考えていただきました。

具体的な取組みにつきまして、龍ヶ崎コロッケを代表とするローカルフード等のブランド力向上と更なる進化の部分では、ご当地メシ決定戦2014で優勝しました龍ヶ崎コロッケを活用した各取組み、龍ヶ崎の農業を活かしたグリーンツーリズムの実施、また、龍ヶ崎の代表的な農産品であります米、トマト等を活用した料理の開発を提案いただきました。

10ページをご覧ください。若い人から家族向けまでみんなが楽しめる龍ヶ崎のコンテンツの充実の部分では、龍ヶ崎の公式マスコットキャラクターまいりゅうや牛久沼、撞舞といった龍ヶ崎が誇るものを積極的に活用した各取組みを具体的に提案いただきました。

最後に、このBグループにつきましては、色々な取組みを着実に実行していくということも重要なことですが、全国において、残念ながら龍ヶ崎はまだ知名度が低いということで、それをいかにメジャーにしていくか、そのための情報発信、特に外に向けた情報戦略をつくって、それを行っていくことが重要だということをご提案いただきました。

Cグループの提言内容です。Cグループは、機能的で魅力的な土地利用をテーマに協議を行っていただきました。3点についてご提案をいただいております。

15ページをご覧ください。まず1点目、活発な情報発信が行われる、人の交流の起点となる場の創出に向けた土地利用をしてみたらどうかということで、人々が集い、賑わう複合施設を龍ヶ崎市役所の西側の県道沿いに誘致してはどうかということをご提案いただきました。

2点目、次のページです。龍ヶ崎のウリの1つとして、豊かな自然環境がございましたが、賑わい創出に向けた整備も行っていきながら、自然の保全も図ることで自然と共存したまちづくりに向けて、牛久沼への道の駅の設置をご提案いただきました。

そして最後に17ページをご覧ください。快適な生活に向けてということで、その1つとして、道路環境の整備が提案されております。具体的には佐貫駅東口から伸びている佐貫停車場線、現在は市民活動で花植えが行われている道路です。歩行者も利用しやすく、この道路を龍ヶ崎のシンボルロードにしていくために、また、その他の道路も利用しやすいものとしていくため、市民活動のしやすい環境づくりを行いまして、市民の皆さんと一緒に取り組んではどうかという提案をいただきました。

	<p>ダイジェストになりますが、以上がワークショップからの提言です。</p> <p>続きまして、資料1-2をご覧ください。1-2には、次期最上位計画策定に係る市民からの意見・提案を記載させていただいております。これについても、先程のまちづくり市民ワークショップと同じように、策定方針に掲げます取組みの1つとして、次期最上位計画策定に係る市民意見・提案の募集を行いました。募集したテーマは、先程ワークショップで各グループに5つのテーマを設定いたしました。同じテーマを設定し、意見の募集を約40日間行いました。政策情報誌やりゅうほー等、広報紙で2回、そして市の公式サイト、フェイスブック等を活用して、募集の周知を行いました。結果、意見を出していただいた方は、全部で7名で、年齢、性別等につきましては、ご覧いただいているとおりでございます。</p> <p>お寄せいただきました主な意見についてですが、子育て・教育環境の充実の部分につきましては、グローバル人材のための取組み、ワークショップでも提案いただいたコミュニティスクールの設置、龍ヶ崎への愛着醸成のための講座の開講等を提案いただきました。続いて、知名度とイメージの向上のところでは、平成29年の佐貫駅名の改称を好機として、イベントや各メディアへの働きかけを行ってはどうかと、仕掛けていってはどうかという提案がされました。</p> <p>賑わいと活気の創出の部分でございます。全国レベルで活躍する流経大のラグビー部の市民応援団を創設してはどうかということ、グリーンツーリズムを推進してはどうかということで提案をいただいております。市民協働について、これからのまちづくりの担い手となる若い人の視点を活かした取組みを行ってはどうかということやまちづくりを推進していくに当たり、実際に何かをやるにしても人がいないと進みませんので、人材の確保にも取り組んではどうかということをご提案いただきました。その他といたしまして、公共交通の充実、健康寿命延伸の方法等について、ご提案いただきましたところでございます。</p> <p>駆け足となってしまいましたが、市民の皆さんから頂いた主な意見をご紹介させていただきました。また、この意見募集に合わせまして、市民の皆さんから意見交換の場の開催等のご要望についての募集も行いましたが、これについては、希望される方はいらっしゃいませんでした。</p> <p>最後に、ワークショップや市民の皆さまから頂きました意見につきましては、趣旨や考え方を計画に反映していくとともに、具体的な取組みにつきましても、可能な限り、その実施に向けて検討を行っていきたくて考えております。以上でございます。</p>
<p>苦瀬会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいま、まちづくり市民ワークショップからの提言等につきまして、ご説明いただきました。</p> <p>これにつきましてご意見、ご質問ございましたらお願いいたします。</p>
<p>田賀委員</p>	<p>12月19日のワークショップの発表会には私も出席させていただきました。若い方々が活発に、今後の龍ヶ崎のために一生懸命に発表されている姿を見て、頼もしく思いました。ただ、このような単発的なイベントを1回やっただけでは、なかなか定着しません。どうやって、このような仕組みを動かすか。これは継続しないと単発だと打ち上げ花火になってしまいます。それと、龍ヶ崎の魅力をいかに広めるか。何をどう広めるか。考え方は良いと思いますが、どのようなやり方で、どうやって人を巻き込むか。しかも龍ヶ崎から情報を発信して、みんなが集まってくるようにしなければ</p>

	<p>ばいけない。それは何か龍ヶ崎に魅力的なものがあって、人が常に注目してくれる、あるいは興味を持ってくれる、あるいは行ってみようという気になる、このような根底の仕組みが必要だと思いますが、それをどうすればできるのか、具体化するのが非常に難しいような気がします。夢は必要ですが、現実にするにはどうすれば良いのが難しいです。そして人は飽きやすい。単発的に1回やっただけだと、こんなもんかと思うと次の時に来ません。</p> <p>これは、地域の行事やイベントをやっても、来る人は来るけど、来ない人は関心を持たないということが多々あります。定着している10年、20年続けている行事も、もうやめたらどうかと言う人もいます。それを続けていく、動かすための人の場をどのように作っていくかというのが大切だと感じるのですが、具体的な案があると良いのですが、私も悩んでいるところでございます。</p>
苦瀬会長	ありがとうございます。他にご意見、ございますか。
福智委員	<p>11月に商工会青年部の会議の前に時間をとりまして、市の方と次期最上位計画策定に当たっての意見交換をしました。終了後、青年部の方から、なかなか市の方とお話しする機会がないので、とても良い経験になりましたと報告を受けました。</p> <p>このような意見交換を単発的ではなく、言っていただければ、その都度やっていきたいと思っているので、今後もぜひ言っていただけたらと思っています。あの時は、斬新な意見だったり、市の補助金を出したらどうかという意見が多かったと思いますが、もっと回数を重ねていければ、もっと意見を発表する人が増えると思います。</p>
苦瀬会長	ありがとうございます。他にご意見、ございますか。
膳法委員	<p>龍ヶ崎の名を全国に売っていきたいというお話がありましたが、昨日、大学でも会議がありまして、学生の食も非常に状況が悪いです。具体的に言うと野菜が不足していて、バランスが非常に悪いということが問題視されています。</p> <p>ここに出てきたキーワードで地産地消がありました。私も叶えられるのであれば、学生の食の状況を良くしたいという思いがあります。龍ヶ崎は、野菜が有名であるにもかかわらず学生の野菜不足があるという矛盾した問題があると思っていました。</p> <p>例えば、流通経済大学はかなりスポーツで全国的にも有名ですので、部活動を支えるために、地域の食材を使って、学食を活性化していくことによって、地域の人も集まってくるでしょうし、全国的にも、このような食により、パフォーマンスができていくというようなアピールもできると思いますので、そういうところも利用していただけるとありがたいと思っています。</p>
苦瀬会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>他にご意見、ご質問ございますか。</p>
石崎委員	<p>私も田賀さんと同じようにワークショップの発表会に参加させていただきました。限られた時間の中で、皆さん一生懸命に色々なことを試行錯誤して、考えを展開していただいているなと感じました。</p> <p>実はこのような意見交換会の募集、情報発信の仕方は、ある方にご意見を聞きますと、アクティブ層が2割くらい、あと8割が無関心層だそうです。アクティブ層の2割ないし3割の方は、一生懸命、情報を取りに来て、アクションをしていただけるのですが、残りの7割、8割の層が情報を見ても次のアクションにつなげないというところをどのように引き出すかが非常に重要なことで、この解決策は何か、これがこの</p>

	<p>中でも指摘されていますが、コミュニティが非常に重要で、コミュニティにかかってくるだろうというご意見がありました。</p> <p>ご参考として、発信の仕方です。私はワークショップのやり方を受け身で、発信して参加を待つということではなくて、もう少しアクティブにワークショップを開催していくと、コミュニティの口コミの中で、1回でも無関心層が体感すると、非常に共感して一歩踏み出してくるという流れが見えるので、ぜひそのような施策も1つ考えていただくと良いと感じました。</p>
苦瀬会長	ありがとうございます。他にご意見、ございますか。
本多委員	<p>花いっぱい運動とありますけれども、龍ヶ崎市のシンボルロードということで、道路に花を植えて、それが行われることによって、スピードの抑制であったり、安全にもつながってくると思います。こういったことも非常に良いことだと思います。</p> <p>あと弊社の場合、私はバスの方ですが、竜ヶ崎線の竜ヶ崎駅でも駅の花植えに市にも協力していただいて、利用者の方から「朝から気分が良いわ。」とご意見を頂いておりますので、このような運動をどんどん進めていただくと喜ばれると思います。私の方も挨拶運動等をやっておりますので、一緒にやっていけたらと思います。</p>
石引委員	<p>先程、地産地消のお話がありましたが、龍ヶ崎でとれるものは、皆さんもわかっていると思いますが、とれたものが何に使えるか、料理にしても幅広く使えるか、市民も一緒に参加できて、龍ヶ崎の産物を使ってお料理コンテストを毎年開かれたら、地産のものが広がって良いかと思えます。</p> <p>市民の皆さんはトマトとコロケは知っていると思いますが、その他にも野菜がありますので、そのようなものを使って幅広く、地域の皆さんがこれを使って、工夫してお料理をつくりましょと、コンテストをしていけば、そのお料理も広がっていくと思っておりますが、いかがでしょうか。</p>
山崎委員	<p>佐貫駅名改称や佐貫駅前の整備が話題になっていますが、駅前の整備等、佐貫市街地にふさわしい環境づくりということが、課題として発表されています。ソフト面は食べ物等が出てきますが、あまり大胆なハード的なご意見が出ていないように感じました。</p> <p>駅前の動線の整理や駅施設、これは市だけでできる話ではないと思いますが、鉄道と連携しながら、駅前の活性化を図るためには、それなりの整備が必要だと思います。</p>
苦瀬会長	<p>他にご意見ございますか。よろしいでしょうか。</p> <p>皆さまのお話を聞いて感じたのは、市民の皆さんから良い意見がたくさん出てくると思いますが、これを全て同時にできるのだろうかと気になりました。また、ぼやけてしまうのかなということが心配です。</p> <p>コミュニティづくりという話もあって、市民の内側に向けるものと、龍ヶ崎市外に向けるものと、1つずつ、ソフトが1つ、ハードが1つなのは分かりませんが、万遍なくやろうとするとぼやけてしまうので、リーディングプロジェクトを2つか3つ、それが進んでいくと一緒に他のご提案もくっついてくる形だと良いと思います。</p> <p>他にご意見ございますか。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、一通りご意見が出ましたので、また何かありましたら、最後のまとめの時にご意見を賜ります。</p> <p>次に移りたいと思います。2つ目の議題です。龍ヶ崎まち・ひと・しごと創生総</p>

	<p>合戦略についてでございます。まち・ひと・しごと創生総合戦略につきましては、ご存知のとおり、次期最上位計画に関連する計画でございます。この度、策定が完了したということですので、事務局よりご説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>それでは、龍ヶ崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略につきまして、ご説明いたします。前回の会議において、当計画の策定の背景、趣旨、総合戦略とその前提となります龍ヶ崎市人口ビジョンの案について、ご説明申し上げました。結果的にパブリックコメント等による修正はございませんでしたので、本日、お手元の資料が龍ヶ崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略でございます。前回、説明させていただいた内容と変更はありません。</p> <p>本日の資料は、写真やイラストを入れて体裁を整えたもので、内容は同じですから、説明は割愛して、おさらいという形で次期最上位計画との関連等について、ご説明させていただきます。それでは、資料をご覧くださいと思います。</p> <p>まず2ページをご覧ください。一番下の部分です。平成27年、2060年の人口目標を6万5,600人、老年人口比率を33%という目標を立てました。この背景につきましては、このままの状況が続いた場合、龍ヶ崎市の人口は、2060年度に5万1,500人程度になってしまうことを踏まえて、その対策のためにどうしたらよいか。全国的な人口減少の中、各市町村で奪い合いも発生してしまうこともありますが、龍ヶ崎独自の施策をもって、どのように改善していくかを勘案いたしまして、現在の約8万人よりは減ってしまいましたが、努力をして、施策を展開していったら、6万5,600人程度にしようと目標を掲げさせていただきました。</p> <p>こちらは、長期的な人口推計あるいは目標人口につきましては、最上位計画においても反映されるべき人口であって、次期最上位計画においては、この計画をもとに平成27年、2060年という超長期的なビジョンではなくて、10年程度の長期ビジョン、10年後に龍ヶ崎市をこれくらいにしようという目標人口を設定していくことになると思いますが、そちらをベースにリンクしていく形でございます。</p> <p>次に3ページをご覧ください。この総合戦略が次期最上位計画の地方創生分野の柱となる部分であることは前回ご説明申し上げましたが、そのことが、3ページ1番上の3番、基本的な方向性(1)ふるさと龍ヶ崎戦略プランとの関係のところで整理されています。その(1)の一番最後のところに、次期最上位計画の地方創生分野の柱となることを、明記させていただいております。</p> <p>次に、6、7ページをご覧ください。こちらは、総合戦略の基本目標A～Dまでの4つの基本目標と、7ページの(2)に基本目標の下にぶら下がる施策が、それぞれ3つから4つございますので、そちらが整理されております。内容については、前回ご説明させていただいたとおりです。</p> <p>それと、次期最上位計画との関連性ですが、本日の配付資料3-1、A3横版と7ページを見比べていただきたいと思います。どのようにリンクしていくかと言いますと、例えば、総合戦略の基本目標A、子育て環境日本一を目指したまちづくりについては、最上位計画では、重点戦略1番の次世代の希望の実現の中にぶら下がる基本目標の1番に来ています。</p> <p>子育て環境日本一を目指したまちづくりは最上位計画の中では、重点戦略1、基本目標1に反映されています。同様に、基本目標B、住んでみたいと感じるまちづくりについても、最上位計画では重点戦略1、基本目標2の住んでみたいと感じるまちづくりという形で反映されております。</p>

	<p>基本目標C, 地域の潜在力を活かしたしごとづくりに関しても, 最上位計画では重点戦略3, 地域活性化の基本目標7, 地域の潜在力を活かしたしごとづくりと賑わいを創出するまちづくりに包含されていきます。</p> <p>総合戦略D, 地域がつながる, 安全・安心なまちづくりに関しても, 最上位計画では, 重点戦略4の地域力の向上, 基本目標10の地域がつながる, 安全・安心なまちづくりに入りますが, こちらについては, 内容を分割させていただいて, 次期最上位計画の骨子では, 基本目標の11番に, 高齢者等が健康で生き生きと暮らせるまちづくりを立てましたので, 総合戦略, 基本目標Dの高齢者の「健幸」力の向上はそちらに包含させていただきました。</p> <p>7ページの基本目標D, 施策3, 既存ストックのマネジメント強化については, 次期最上位計画では, 重点戦略1, 次世代の希望の実現の人口減少社会に対応したまちづくりの中に, 一部包含されていくという整理を行いまして, 今回の龍ヶ崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略については, 主だった部分が現在, 策定を進めております次期最上位計画の中に包含されていくイメージを持っております。</p> <p>総合戦略と最上位計画の関連につきましては, 以上でございます。</p>
苦瀬会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいまのご説明につきまして, 何かご意見, ご質問ございますでしょうか。ただいま総合戦略と資料3-1についてご説明がありました。3番目の議題では資料3-1が主になると思います。総合戦略との関係をここで整理しておけば良いと思いますが, 何かご質問ございますか。</p> <p>私から1つ確認させて下さい。総合戦略の7ページに基本目標の実現に向けた具体的な施策ということで, 基本目標ABCDとあって, 施策の①②③と, それぞれあります。確認ですが, 基本目標Aが資料3-1の1番上の1番, 基本目標Bが2番の住んでみたいと感じるまちづくり, そして, 基本目標Cが7番, 地域の潜在力を活かしたしごとづくりになって, 基本目標Dが10番の地域がつながる, 安全・安心なまちづくりに結びついてるという理解でいいですね。</p>
事務局	はい。概ねそうです。
苦瀬会長	それで, その中の施策の①②③は, 基本的には資料3-1の基本施策に入っているという理解でよろしいですか。
事務局	はい, 基本的にはそのとおりですが, 基本目標Dの施策のように別のところに施策を立てたものもございます。
苦瀬会長	<p>わかりました。ありがとうございます。</p> <p>もう1つの質問ですが, 今の説明だと, 基本目標の1や2, それから10等は, まち・ひと・しごと創生総合戦略から来ているということですが, 残りは既存の行政のプランから持ってきているのでしょうか。</p>
事務局	他の計画からのものもございます。例えば, 重点戦略の2番です。こちらは, 現在, 同時に策定を進めております龍ヶ崎市教育プラン, 法定でございます教育大綱等を内容とするものですが, 2番で現在, 策定しております教育プランを包含していくため, 2番に教育環境の充実を持ってきまして, 基本目標の4, 5, 6にプランの内容を入れ込んでおります。重点戦略の5番につきましては, 現在の行政改革大綱の部分が入ってくるイメージとなっております。

<p>苦瀬会長</p>	<p>最上位計画だから、総合戦略、教育プラン、行政改革の内容を入れているという理解でよろしいですか。</p> <p>わかりました。</p> <p>何かご質問、ございますか。</p>
<p>山崎委員</p>	<p>私も会長と同じような質問になりますが、体系図では、主要計画の内容を取り込んで、また、それにプラスして柱立てをしている。この会議では、次期最上位計画の柱立てについて、協議していくという理解でよろしいですね。</p> <p>また、体系図の中で、他の計画と細かい部分までイコールとしたもの、逆にしなかったものがあるけれども、全体としてはフォローされている、それがこの体系図ということよろしいですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>市の大きな計画が最上位計画に包括されていくので、ぴったりイコールのところもございますし、次期最上位計画を策定するうえで、市の方針として出したものもございます。そういったことも勘案して、次期最上位計画の体系について、この後説明もございますが、協議していただければと思います。</p>
<p>苦瀬会長</p>	<p>3番目の議題に進みたいと思います。本日の一番重要な課題だと思えます。次期最上位計画の骨子、体系図案についてでございます。</p> <p>これにつきましては、前回の会議において次期最上位計画に登載していく施策について、皆さまにご協議をいただきました。本日は、それをもとに次期最上位計画の骨子となる体系図をまとめているということなので、これについてご協議をいただきたいと思えます。</p> <p>まずは、事務局よりご説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>それでは、次期最上位計画の骨子、体系図案についてご説明いたします。次期最上位計画の策定につきましては、現行プランをベースに見直しを行いながら、第6次行政改革大綱、まち・ひと・しごと創生総合戦略、教育大綱等の主要計画を包括していくという策定方針を定めているところです。先程の副市長からのあいさつにもございましたが、その策定方針に基づきまして、これまで現行戦略プラン及び第6次行政改革大綱に登載されている主要事業の進捗状況、数値目標の達成状況やまちづくり市民アンケートの内容を勘案しながら、重点戦略ごとに、今後の方向性、課題等をまとめまして、それに基づき次期最上位計画に登載していく施策等について整理を行ってきたところです。</p> <p>こうした経緯を踏まえまして、今回、次期最上位計画の骨子体系図案を作成するとともに、次期最上位計画の実行に当たり、想定される主な事業につきまして、あくまで参考という形になりますが、資料を作成したところです。</p> <p>それでは、A3横の資料3-1をご覧ください。次期最上位計画の骨子、体系図案となっております。まず、計画の名称です。暫定的な形ではありますが、仮称第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プランとさせていただきます。その下に、将来ビジョンという形で記載をしております。</p> <p>こちらにつきましては、先程の説明にもございましたが、まち・ひと・しごと創生法に基づく龍ヶ崎市人口ビジョンにおきまして、2060年の目標人口等を定めているところでございますが、次期最上位計画におきましても、まずは、2060年程度の超長期的なスパンで龍ヶ崎が目指す将来の方向性と人口の将来展望を示すとともに、10年程度先の長期的な人口目標を示していきたいと考えております。詳細につきましては</p>

は今後詰めていきますが、その中で土地利用方針等も定めていければと考えております。そのような長期的な将来ビジョンを考慮しながら、平成 29 年度以降の 5 年間にわたる龍ヶ崎市のまちづくりの基本方向を示し、何をどのように取り組んでいくかを示すのが将来ビジョンから下の部分になってまいります。

まずは目指していくまちの姿、まちづくりのキャッチフレーズを示します。こちらにつきましては、現行戦略プランの進捗状況や現状を勘案いたしまして、現行の戦略プランに引き続きまして、「ひとが元気、まちも元気、自慢したくなるふるさと龍ヶ崎」を掲げております。この目指していくまちの姿を実現していくために、今後 5 年間、何に取り組んでいくのかというのが、その下の部分になってまいります。構成といたしましては、重点戦略、基本目標、基本施策となっております。さらに、一番右の基本施策ごとに具体的な事業がぶら下がってくるわけですが、次期最上位計画に登載するのは、施策レベルまでにしておりますので、次期最上位計画の全体像としましては、この基本施策までとなります。

具体的な事業につきましては、中期事業計画の中で定め、毎年見直しを行っていきます。この体系図には記載しておりませんが、今回、A3 縦の資料 3-2 を参考資料として作成をいたしまして、次期最上位計画の実行に当たり、想定されます主な事業を記載しております。ここには既存の事業から、新たな事業まで記載しておりますが、精査が必要なものもありますので、あくまでも参考という形になりますが、合わせてご覧いただければと思います。

それでは、資料 3-1 です。体系図の一番左側の重点戦略をご覧いただきたいと思っております。今回、作成しました案では、5 本の重点戦略を掲げております。赤い枠で囲まれている部分ですが、今回わかりやすさという点を重視しまして、取り組んでいく分野が分かる形で記載をしております。そして、その下にそれぞれサブタイトルをつけております。

まず、重点戦略 1 についてですが、次世代の希望の実現ということで、若者・子育て世代の定住環境の創出を掲げております。本市の人口は、平成 22 年をピークに減少傾向に転じておりまして、今後、少子化と人口減少がさらに進行すると予測されることから、若者、子育て世代を中心とした人口誘導が求められており、子育てしやすい環境づくりと、住んでみたいと感じる魅力あるまちづくりを進めることで、若者、子育て世代の希望を叶え、定住人口の増加を図ろうとするものです。そして、この重点戦略 1 に沿って、展開していくまちづくりの基本目標を 3 つ掲げております。

まず、基本目標 1 として、子育て環境日本一を目指したまちづくりを掲げております。また、この基本目標を実行していくための取組みとして基本施策を 3 つ掲げております。こちらは若い世代が希望を持ち、安心して結婚し、子どもを産み育てられるよう、子育てしやすい環境を整備することや出会いから結婚、妊娠、出産、子育て等、各ライフステージに応じた支援の展開によりまして、子育て環境日本一を目指したまちづくりを推進していくものです。先程の説明にありましたが、この基本目標 1 につきましては、まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標と施策を取り込む形で構成しております。

次に、基本目標 2 として、住んでみたいまちづくりを掲げております。そして、この基本目標 2 に対しては、5 つの基本施策を掲げております。こちらは快適な住環境を整備し、若者、子育て世代の移住、定住を促進するための支援策を講じる他、市内から都心へのアクセス性の向上によりまして、都心への通勤圏であることの優位性を

活かした通えるまちづくりを進め、転入促進、転出抑制を図るものです。この他、教育環境や生涯学習環境の充実、環境問題への積極的な取組みにより、選ばれるまちづくりを進めるものです。なお、この基本目標につきましても、まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標と施策を取り込むとともに、現行の戦略プランにあります環境関係の取組みを施策として組み入れて構成しております。

次に、基本目標3として、人口減少社会に対応したまちづくりを掲げております。この基本目標に対しましては、2つの基本施策を掲げております。こちらは、佐貫駅周辺地域について、市の玄関口に相応しい賑わいを創出していくための取組みを進めていくことや竜ヶ崎駅北地区の高度利用等により、交流人口の増加や転入促進、転出抑制を図るものです。

また、そのような人口誘導の取組みと合わせまして、公共施設を縮小しつつも充実させていく取組みや市内交通ネットワークを充実させ、4市街地の時間、距離の短縮を図り、都市機能の集約化、最適化を推進する等、人口減少社会に的確に対応するためのまちづくりを進めるものです。

こちらの基本目標3は、他の計画や現行戦略プランにはない人口減少に特化した新たな基本目標となります。施策としましては、新規のものと総合戦略の施策も一部取り込んで構成しております。

続きまして、重点戦略2についてですが、教育環境の充実ということで、まちづくりを担う人づくりを掲げております。まちづくりを担っているのは人であり、人づくりがまちづくりの基本となるものであるという考えのもと、まちの歴史や伝統を継承するとともに、これからのまちの未来を切り開いていくため、子どもから大人までの幅広い年齢層に対応した教育の充実に取り組んでいくものです。この重点戦略2につきましては、先程、説明がありましたとおり、総合教育会議において協議を進めております教育プランの現時点での内容を取り込んで構成をしております。

この重点戦略2に対しましては、3つの基本目標を掲げております。まず、基本目標4として、龍の子の生きる力を育てるまちづくりを掲げております。こちらにつきましては、義務教育の充実を図るための取組みといたしまして、5つの基本施策を掲げております。内容といたしまして、児童・生徒の確かな学力、豊かな心、健やかな体を育む教育を推進することによりこれからの社会を生きる力を育てるとともに、小中一貫教育の推進等、少子化や人口減少社会に対応した教育環境の整備を図り、本市の義務教育の充実を図るものです。

次に、基本目標5として、龍の子の健やかな成長と自立心を育むまちづくりを掲げております。こちらにつきましては、子どもの健全育成を図る取組みといたしまして、4つの基本施策を掲げております。内容といたしましては、様々な家庭の状況や地域社会の変化を考慮しながら、家庭内の教育の充実に向けて支援するとともに、家庭と地域が連携を図り、子ども達が地域のつながりの中で健やかに成長し、自立心が育まれるようなまちづくりを進めるものです。また、生涯にわたる人格形成の基礎となる幼児教育の重要性に鑑み、幼児教育の充実に取り組んでいこうとするものです。

次に、基本目標6として、生涯にわたり学び、文化やスポーツに親しめるまちづくりを掲げております。こちらにつきましては、生涯学習の推進、スポーツの推進、文化芸術の振興を図る取組みといたしまして、4つの基本施策を掲げております。内容といたしましては、子どもから大人までに対応した生涯学習環境を充実させるとともに、市民が文化芸術に親しむ機会の充実と文化芸術活動の促進を図るものです。また、

本市の歴史や伝統の中で育まれた文化財の保存、活用を進め、次世代に継承していくとともに、市民の地域に対する自信や誇りの醸成を図ります。さらには、市民誰もがスポーツを通じて健全な心身を養い、楽しく健やかな生活を送れるよう、生涯を通じてスポーツに親しむことができる環境を整備していこうとするものです。

続きまして、重点戦略3についてです。地域活性化ということで、まちの活性化と認知度向上を掲げております。当市は牛久沼を代表とする豊かな自然、これまでまちを支えてきた農業や商工業の他、多彩な歴史や文化、多くの地域資源が存在しております。これらの地域資源の活用と関係機関の連携により、まちの活性化と認知度の向上を図ろうとするものです。

この重点戦略3につきましては、2つの基本目標を掲げております。まず、基本目標7として、地域の潜在力を活かしたしごとと賑わいを創出するまちづくりを掲げております。この基本目標に対しましては、4つの基本施策を掲げております。こちらは産業、金融、行政等の関係機関が連携しながら、地域産業の維持強化を図るとともに、雇用の拡大を図ろうとするものです。また、牛久沼等の自然や歴史等の地域資源を活かし、賑わいを創出していこうとするものです。この基本目標7につきましては、まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標や施策を取り込むとともに、現行戦略プランにもある農業関係の取組みを施策として取り入れて構成をしております。

次に、基本目標8として、大学と連携した特色あるまちづくりを掲げております。この基本目標に対しましては、3つの基本施策を掲げております。こちらは、市民が流通経済大学を身近に感じ、大学や学生との活発な交流が展開されることで、まちと大学の双方の活性化につながるよう、幅広い分野での龍・流連携を進めようとするものです。こちらの基本目標8につきましては、現行戦略プランに引き続き取組む事項としております。

続きまして、重点戦略4についてですが、地域力の向上ということで、安全・安心で住みよい環境づくりを掲げております。こちらは、まちづくりの主役は市民であるという考えのもと、市民の自主性に配慮するとともに、市民と行政が連携、協力を図りながら、協働の取組みを拡大するとともに、安全・安心や住みよい環境づくり等、様々な観点から地域力の向上に取り組んでいこうとするものです。

この重点戦略4に対しましては、3つの基本目標を掲げております。まず、基本目標9として現行戦略プランに引き続き、市民活動日本一を目指したまちづくりを掲げております。この基本目標に対しましては、4つの基本施策を掲げております。こちらは市民一人ひとりがまちづくりの担い手としての意識を持って行動し、活発な市民活動により、まちが支えられていく市民活動日本一を目指し、市民協働の取組みの拡大を図ろうとするものです。

次に基本目標10として、地域がつながる、安全・安心なまちづくりを掲げております。この基本目標に対しましては、4つの基本施策を掲げております。こちらは各地域コミュニティでの活動の促進や市内公共交通網の充実等により、地域間の交流を促進する等、人と人とのつながりを活かした地域づくりを進め、安全・安心に住み続けられる地域社会の実現を目指すものです。この基本目標10につきましては、まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標や施策を取り込むとともに、新たな施策や現行戦略プランの既存の施策を取り込んで構成をしております。

次に、基本目標11として、高齢者等が健康で生き生きと暮らせるまちづくりを掲げております。この基本目標に対しましては、3つの基本施策を掲げております。こ

	<p>ちらは、今後も進行していく高齢化社会に対応したまちづくりを進めていくため、地域で高齢者を支えるとともに、心身両面での健康づくりを推進していこうとするものです。また、高齢者や障がい者が生きがいを持ち、地域社会とのかかわりを持つことで、幸せに暮らしていけるような環境づくりにも取り組んでいこうとするものです。こちらの基本目標 11 につきましては、現行戦略プランの施策とまち・ひと・しごと創生総合戦略の施策を取り込む形で構成をしております。</p> <p>続きまして、重点戦略5についてですが、持続可能な行財政運営ということで、将来につながる基盤づくりを掲げております。こちらにつきましては、現行の戦略プランとともに、政策実行の両輪として位置づけられている行政改革大綱を次期最上位計画に取り込みまして、行財政改革と一体的に計画の推進に取組み、持続可能な地域経営を維持するための基盤づくりを図ろうとするものです。この重点戦略5に対しましては、基本目標 12 として、健全で効率的な行財政運営の推進を掲げております。この基本目標に対しましては、3つの基本施策を掲げております。こちらは人的資源、財源、施設等の限られた行財政資源を有効に無駄なく活用し、将来にわたって、市民サービスを継続していくための取組みを進めようとするものであります。</p> <p>以上が、次期最上位計画の骨子体系図案となります。</p>
<p>苦瀬会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、ただいまのご説明につきまして、皆さま方にご意見を賜りたいと思えます。よろしくお願いいたします。</p>
<p>石崎委員</p>	<p>ご説明いただきまして、ありがとうございました。これを私なりに解釈しました。間違っていたらご指摘いただければと思います。</p> <p>重点戦略が5つありますが、これは、1と2は次世代への布石施策であって、3、4は次世代に向けた改革の位置づけ。5は少し異質で、これを運営するための仕組みという切り口で理解するとわかりやすいと思って、勝手に解釈しましたが、そのようなイメージでよろしいでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>はい。そのような側面もございしますが、将来に向けて今やらなければならないことあるいは、現在、市を支えております納税者の皆さまのための施策も打っていかねばならないことも、ちりばめております。</p> <p>次世代、これからの若者、子育て世代、子ども達の施策もございしますし、2番の教育環境につきましては、教育というイメージから子ども達がメインになってくると思えますが、生涯学習にも取り組んでいきます。</p> <p>それぞれの基本目標で狙う世代や集団はあると思えますが、必ずしも重点戦略では分けていないイメージです。</p>
<p>石崎委員</p>	<p>そういう意味では、1と2は実際にこんな施策を打っていかねばならないという施策と捉えてよろしいでしょうか。そして、3、4は現状を鑑みた時に、次世代に向けてこんなことを改革していかないと、今後、人口減少の中で、市が健全な運営はできていかんだろうというところに向けた重点戦略と分けて捉えても良いということでしょうか。</p> <p>分け方の議論をするつもりはありませんが、そのような切り口で捉えたときに、この基本目標が全て同列なのかが疑問に思いました。基本目標1、子育て環境日本一を目指したまちづくりが大項目で、この下にブレイクダウンされるものは4、5、6、これを達成するための施策というイメージで捉えられると思えます。</p>

	<p>それともう1つは、2番の住んでみたいと感じるまちづくりは、これをブレイクダウンすると例えば7, 10, 11が、それを達成するための施策にも見えるようなイメージなので、同列は違和感があると感じました。私の勝手な解釈の違いかもしれません。</p>
苦瀬会長	<p>ご説明ありますか。</p>
事務局	<p>ご指摘いただいたところですが、こちらは、まだ体系図案ですので、この基本目標の下に、このようなターゲットでこのようなことを目指していくという説明文が入ります。</p> <p>基本目標には例えば、子育て環境日本一を目指したまちづくりという、重点戦略にもなり得るような大きな基本目標となっておりますが、子育て世代、子育て予備軍をターゲットとして、この基本施策に掲げたものを打ち出していくということで、現行の戦略プランに引き継ぎまして、重点ということで一番上に持って来ました。重点戦略のサブタイトルでもありますように例えば、若者、子育て世代というターゲットに絞っているイメージですので、例えば、基本目標のこれを達成すれば、他の基本目標も入ってしまうのではないかと、色々なご意見も頂きながら、今回お示ししましたものは決定ではございませんので、あくまで案としての趣旨で作り込みをさせていただきました。</p> <p>その辺りについてもご意見いただければと思います。よろしくお願いします。</p>
石崎委員	<p>ご説明ありがとうございます。</p> <p>おそらく下で言えば、7, 10, 11が達成されれば、必然的に住んでみたいと感じるまちづくりになるだろうと思いますので、冒頭に苦瀬会長からも、総花的に全部取組むのですかというお話がありましたが、私も共感しました。そういう意味では少し絞り込んで、ある項目に対するブレイクダウンの項目であれば、包括的にとらえれば、例えば、1番と2番が龍ヶ崎として取組む大きな視点だと。その中に具体的な施策として、手段としては、7, 10, 11の手段を講じていきますと。</p> <p>これのさらなる具体的な手段は、ブレイクダウンして出てくるのだろうと思いますが、そのように捉えると龍ヶ崎は次に、どのようなことに優先的に取り組もうとしているのか、わかりやすいのかなと思いました。これは、私の捉え方かもしれません。そのように思ったので、質問させていただきました。</p>
田賀委員	<p>全般的に項目を見るだけでも、広範囲にわたり、しかも、これを実際にやっているとすると相当の労力とエネルギーが必要な内容だと思つづくと思います。やるべきことということであげていることは良いと思います。</p> <p>私の立場で見ると、住民自治組織なので、一番関連が深いのは、ここでいうと4番の地域力の向上ということで、今、色々なことに取り組んでいますが、色々なところが動かないと、これを達成することができないだろうと思っています。まず、私の住民自治組織である地域のコミュニティづくりを4年前から始めました。大分、変わってきました。しかし、なかなか動くのは難しいと思っています。</p> <p>重要な目標が必要ですが、それをみんなが理解して、自分たちのものとして動くためにはそこを動かすための相当なエネルギーがいて感じていて、疲れてきます。ただ、これは行政だけでもできないし、私達だけでもできないし、それからここに、龍ヶ崎にある企業や色々な機関と連携する、大学もそうでしょうし、官、学、住民あるいは教育機関等、色々なことで連携するテーマを絞って、お互いに手を携えて同じ方</p>

	<p>向に向きを合わせる事が非常に大切だと思います。これを示して、住民が理解し、本当に動くのかどうか。まとめて動かしていく人は相当、力が必要だし、エネルギーが必要です。理解してもらうための動かし方が難しいと思います。方向を示すことはできたとしても、それに合わせて人が動くために必要なものはキーパーソンなんだろうが、これに向かって、どれだけ人が動けるかが勝負になるのかなと思います。</p> <p>ただ示さなければ見えないから、示すことが大切ですが、これが自分達にとって本当に必要だと思って、動いていけるようにするために、予算をつけるのも必要だろうし、それから何かをやりながら、良くなってきたと感じるように動かないといけないと思います。</p> <p>私達も、初年度の最初の段階で地域コミュニティをつくって、3年目になります。市長とお話しをする時に常を感じるの、行政と住民の関係が大幅に変わってきているということ。どういうことかということ、私達住民は市にクレームをあげて、ここがまずいからやってくれと電話をする。住民は税金を払っているから当たり前だと思っ ていますが、そうではない。地域コミュニティでは、まず自ら、自分たちの住んでるまちを良くするという視点で物を考えなければ、物事は自分達が実際に動いてみないと変わっていかない。これが大切であると、地域コミュニティをつくって、私が今一番感じていることです。</p> <p>ここに書いてあることに対して、動ける人が本当に動き出すための仕組みづくりがどのようにできるか。5年後、今、ここに書いてあるものに対する指標をつくることは大切ですが、スタンダプレイで指標を達成するためだけに動くのではなくて、まち全体がこの方向に動いていくにはどうすれば良いのか。人が動けば、まちは変わります。まちが変われば住みやすくなる。ということがよく言われますが、そのために動けるような組織や体制がどうできるかということ私は今、感じています。</p> <p>4番の住民自治組織のコミュニティは、私達が担っていくところであり、今、色々なところに取り組んでいて、色々なことをやり始めて見えてきています。動く人達がいなくてどうにもならない。私達も協力しますが、どのような動き方をするのが非常に大切だと思います。方向性を示しても、住民が動かなければ意味がありません。ここにいる龍ヶ崎の住民や機関が動くようにするための仕組みづくりが必要だと感じています。</p>
<p>大山副会長</p>	<p>重点戦略をこの順番にあげたことに対する理由があれば教えてください。この中の教育環境の充実、人づくりに関しまして、他の1, 3, 4, 5の重点戦略は、環境整備というイメージに対して、2番については人づくりということで、あくまで私の意見ですが、同じ立ち位置にはならないのではないかと感じました。</p> <p>もし説明があればよろしくお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>おっしゃるとおりで、教育環境の充実については、今の戦略プランにおいては、子育て環境日本一を目指したまちづくりの中に記載されていましたが、子どもが減ってきているし、選ばれるまちになるには、教育は大切だと私達も感じていまして、格上げ、昇格をさせて龍ヶ崎市は教育環境を一生懸命やっていくという自主性を示したいという思いから、このような形としたところです。</p>
<p>大山副会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>体系図の場合、同じように並べるのではなく、何か横断するような視覚的なものを検討していただくと、よりイメージがしやすくなると思います。</p>

	個人的な意見ですが、よろしくお願いします。
膳法委員	<p>色々な基本目標があつて、皆さんの意見に私も賛成です。ただ、本当に実現が可能なのかなということが、説明や皆さんの意見を聞いていて思いました。</p> <p>例えば、基礎・基本学力の定着がありますが、これは目標だけであつてどうすればこうなるのかというのが具体的ではないものと、一方で、例えばスポーツ教室、イベントの開催というのは、大学やどこかに開催してと言つたらすぐにできるようなものが、一緒にあることがとても気になります。</p> <p>今の時点でこの目標と同じような動きがあるものと、これから動かなくてはならないものを整理した方が良いと思いました。</p>
石崎委員	<p>これは大きな方針ですので、実際にアクションする時には、アクションプランという形で、具体的な事業はその下に策定されていくと思ひますが、その時の想定として産・官・学・金も含めて、連携して展開していかないと、これだけのアクションは行政だけでは当然無理でしょうし、民間企業等を上手く活用しながら、アクションプランを展開することが重要だと思ひます。難しいと言つていると一歩も進みませんので、そのようなアクションをされていくことが大事だと思ひます。</p>
山崎委員	<p>イメージで結構ですが、想定される事業についてです。基本目標2の大学等と連携した人材育成のところ、トップアスリートの育成が①になっていますが、これは例えば流経大の卓球部の人々が教えるといったイメージをされているのか、それとも、これから検討していくというイメージなのか。</p> <p>もう1点は、ご説明の中で、新都市拠点開発エリアの土地の高度利用とありますが、この新拠点というのはどこを指しているのか。この2点です。</p>
川村副市長	<p>トップアスリートの育成については、スポーツ振興基本計画が既にできていて、この中で位置づけられた施策です。基本的には、流通経済大学のスポーツをメインとして、地域の子どもたちを育てていこうというのがメインです。</p> <p>次に新都市拠点開発エリアについてです。このエリアについては、竜ヶ崎駅の北側、市役所の西側の農地の一帯の開発を目指しています。今、事業化調査やこのような画にしようということで、構想を練っているところです。</p>
本多委員	<p>1番の重点戦略の中の通えるまちづくりの中に、佐貫駅の機能向上とありますが、機能向上というのは何を指しているのか教えてください。</p>
川村副市長	<p>佐貫駅の周辺整備基本構想を策定中なので、策定次第、皆さんに公表して意見を頂く形になりますが、市民の皆さんから言われるのは、佐貫駅前に魅力がない、賑わいがないということで、レストランや喫茶店、スーパーもない、そのようなことが言われています。この結節点となる駅周辺には、どのような都市機能が必要なのか。その機能をどのように配置していくのか。今、その構想を策定していきますので、でき次第、皆さんにお知らせしたいと思ひます。</p>
福智委員	<p>基本目標の中にある流通経済大学と連携した人材育成と、3番の重点戦略の中に、大学と連携した特色あるまちづくりがあり、非常に流通経済大学がキーになると思ひました。</p> <p>龍・流連携の事業に関する情報の発信は、行政から発信できると思ひますが、その他の事業については、流通経済大学の方にウエイトがかかり過ぎないように、行政と大学国際観光学科との連携等、その後にも連携という言葉が続いていきますが、行政</p>

	と流通経済大学が本当に連携できるような、流通経済大学にウエイトがかかる事業ではなくて、フィフティ・フィフティでやれる事業になれば良いと思います。
松尾総合政策部長	ご指摘のとおりで、従来ですと、どちらかというイベントの時に人手が足りないの、学生さんをお願いする等、龍ヶ崎市にとって、住民にとってメリットがあることは、随分やらせていただきましたが、本来的にウィンウィンの関係でないともずいと思っています。大学の自主性、主体性をきちんと踏まえた上で、連携を深めていこうという趣旨で、今回は今までと発想を変えているところです。
福智委員	ありがとうございます。 竜 K0I 舞祭の時にやるラグビーフェスタと第 2 回が行われた野球教室に参加しました。子ども達がたくさん流大生と交流を深めて、大学生もとても元気がよくて良い事業だと感じました。 今後も流通経済大学との連携はやっていってもらいたいと思いました。
副島委員	私は保育園を経営しており、お父さん、お母さん達が産み育てる環境づくり、子育て支援に携わっている者です。女性が色々なことを期待されて疲れてしまっているのが見え隠れしています。できれば、もう少しゆとりがあつて、子どもを育てられるような女性の生きやすい環境づくりを目指してもらえればと思います。そう思いながら、皆さんの意見を聞いていました。 お父さん、お母さん達が求められているものに対して、保育所がそれに応えようと、今度は子どもが朝からずっと保育園にいるような状態になってしまい、それはどうなのかなと思っています。 市長が子育て環境日本一を目指していますので、その点をお父さん、お母さん達に聞きますと、やはり意見が出てきません。生きるだけで精一杯で、どっちでもいいような感じで、保育園も怪我や事故がなければ良くて、その他には、特に要望がないのが現状なので、意識をもう少し高めてもらえればと思っています。 それと、園長として子どもたちに、人間として子どもを産み育てる、命のリレーをするんだよという働きかけは微々たる力ですが、しています。できれば保育所や幼稚園の園長会、あるいは子育てに携わっている教育や福祉関係の方達で、もう少し力を合わせて育てられるような環境づくりをしていただき、歩調を合わせていくことが重要だと感じました。
石引委員	高齢者がすごく増えてきますよね。今は高齢者とは言っても、とても元気な方達が多いので、そのような方達を上手く活用して、例えば子育ての手助けをしてもらってはどうかと思います。 高齢者と一括りにするのではなく、高齢者でも元気な方がおり、また人数も増えてくるので、上手くやっていただければ協力をいただいて、子ども達と接したりしていただければ、教育的にもとても良くなると思います。高齢者の方にとっても子どもの刺激を受けて良いと思っています。
田賀委員	石引委員がおっしゃったことについて、非常に私達も興味を持っています。地域の活性化のために高齢者が地域に役立つことで何かお手伝いできないかということに目をつけています。 私達は長山地域で、高齢者の生きがいプロジェクトをつくっています。家にいて奥さんの神経を苛立たせる男の人が多いため、男の人を外に出して、居場所づくりをす

	<p>る。また、私どもの長山地区には蛇沼公園という自然公園がありますが、その清掃活動をしたり、もっと高齢でお困りの方のお手伝いをする。草刈り、家事のお手伝い、ゴミ出し等です。自分の役割ができれば、高齢者は邪魔になるものではない。リタイアしたからゆっくり休みたいという気持ちはありますが、男の人でも女の人でも自分の居場所をつくるということは非常に大切だなと思います。</p> <p>これは地域コミュニティでそのようなテーマで取り組んでいますが、そのような動きが大きくなっていけば、高齢者に対しても住みよいまちになっていくと考えています。これは他の地域でも既に城ノ内や川原代が始めていますし、これから介護が必要な人がどんどん増えてくるので、それを地域ですることができるということが大切です。これも行政とのつながりや医療機関と連携しながら、良い方向に持っていく。</p> <p>この前の夜回り先生の講演の後に、文化会館の下で少しお話ししましたが、農地の空き地があつて、後継者がいない地域があつて、農地の草がボーボーになってしまっている。逆に、ニュータウンの地域の人たちは、自分たちの庭では家庭菜園ができない。それで、農地が空いているところを利用させてもらったり、有効に活用しながらお互いに情報交換をしたり、龍ヶ崎のまちの歴史を聞いたり、農業の技術を教えてもらったり、そして自分達が食べる野菜も安全なものがつくれる。そして、おいしく食べる。交流が広まる。そうするとお互いにウィンウィンで、龍ヶ崎を盛り上げることができるかなと思います。</p> <p>地域同士の交流もそうですが、人と人との交流が深まっていけば、高齢者の居場所、生きがいにもつながっていくかなと思います。これは、地域が考えることかもしれませんが、まちおこしのための1つの手段なのかなと考えています。</p>
<p>苦瀬会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>例えば、小学生がお年寄りにそば打ちを習ったりするのはかっこいいですね。ぜひ、参考にさせていただきたいと思います。</p> <p>久保田委員、いかがですか。</p>
<p>久保田委員</p>	<p>市内の大学とか地域の方々との連携の視点も重要だと思いますが、例えば、公共施設の利活用の問題や情報発信等の拠点をつくって、駅周辺や道の駅等に関して色々なアイデアがあると思いますが、市内だけではなくて、周辺の市町村との連携も重要ではないかと思います。その辺りも踏まえて、計画の中でご検討いただければと思います。</p> <p>あと1つ確認です。ワークショップでのご意見や視点というのは、アクションプラン等を実践する中で、その意見を反映させていくというイメージでよろしいですか。</p>
<p>苦瀬会長</p>	<p>よろしいですか。</p> <p>それでは、私も意見をいくつか申し上げたいと思います。皆さんから、構成をどうするかという議論がいくつかありました。重点戦略は5つに分かれているけれども、こっちに入れたらどうか等、色々な議論があったと思います。その辺りは、事務局で皆さんのご意見を承って、検討していただいて、そのままでも良いのではないかなというなら、それはそれで良いのですが、考えていただければありがたいと思います。</p> <p>ただ、私としては、5つの分類は良いと思います。なぜなら、行政の方達が策定するので、行政で扱っている部分を万遍なく書いておかないと、ここが抜けていると言われたら大変辛いと思います。私もこれを全てやるのは大変だと思うし、現実的に無理ではないかと思いますが、書かざるを得ないのかなと私は思いました。ただ、構成</p>

	<p>に関して、議論があったので、それを検討していただければありがたいと思います。</p> <p>2つ目は、久保田委員からお話がありました。最初の議題のワークショップの提言があって、A、B、Cグループで、例えば交流の場、市民活動、ローカルフーズ、コンテスト等、色々ありましたが、これが基本施策か基本目標に関係していることが、わかるようにしないとまずいのではないかと思います。つまり、最上位計画をつくるのに、意見をたくさん聞いたのに、どこに行ってしまったのかとなるとまずいかなと思うので、どの事業に関係するのか、見せ方、表現の仕方を考えていただければと思います。</p> <p>それから3つ目は、想定される事業がたくさんありますが、この内の何個か、例えばワークショップでも出たようなローカルフーズ等を選んで、地産地消も入れてやると、中期事業計画等でローリングで考えていかれると思いますが、リーディングプロジェクト的なものを意識した方が良いと思います。</p> <p>最後は、龍ヶ崎だから良いのかどうかはわかりませんが、安全・安心のところに、災害に対する防御に関する記述がなくて心配しています。龍ヶ崎という土地が大丈夫だと言うなら、それはそれで良いですが。昨日も東京で議論してきました。30年以内に7割の確率で首都直下型が起きますと言ったのが12年前です。あと、18年の間に7割の確率です。もっと高くなっているかもしれません。首都圏で、想定している被災人口は3,500万人です。そうすると、東日本大震災の4倍です。さらに、工場も潰れるでしょうから、おにぎりもつくれな。産業構造審議会で議論したのは、ペットボトルは2週間でなくなります。水道の復旧に1か月以上かかります。給水車がない。このような状態になるということを、私達は警告をしています。なかなかマスコミが取り上げてくれないことが現実です。</p> <p>来週も青森県で対策を練る予定です。青森県は3種類の地震を想定しています。火山の噴火と洪水と合わせて、この5つを想定して、どのようにやるかのシミュレーションをして防災対策を検討しています。</p> <p>そのような中で、龍ヶ崎の安全・安心はこれで良いのでしょうか、少し心配です。</p>
<p>事務局</p>	<p>まず、全体の構成につきましては、今日の意見も踏まえまして、再度、検討させていただきます。それで、ワークショップの意見等につきましても、意見によりまして個々具体の事業に反映させていければと思っておりましたが、それをさらに発展させて基本目標や基本施策に反映できるものは反映させていきたいと思っております。</p> <p>それと、会長がおっしゃった危機管理に関することですが、内部の会議でもそのような議論があります。危機管理については、龍ヶ崎市は比較的、他団体よりも積極的に取り組んできたという自負はありますが、それをもっと明確に打ち出して、今後もきちんとやっていく姿勢を示さないといけないということが、庁議で意見がありまして、それをこの基本目標レベルで、書き込むかどうか、検討させていただいております。</p>
<p>苦瀬会長</p>	<p>ぜひ、検討していただければ、ありがたいと思います。私からの意見です。</p> <p>他に、全体のまとめとして、何かございますか。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>それでは、意見が出尽くしたようです。次回の予定はどうなっていますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>次回についてです。平成27年度の審議会につきましては本日で終了です。来年度につきましては、今のところはまだ予定ですが、4月の後半頃に開催させていただ</p>

	<p>て、本日いただきました意見を反映させていながら、次期最上位計画の素案，たたき台を示させていただいて、ご協議をしていただきたいと考えております。日が近くなりましたら、改めてご案内をさせていただきたいと思います。</p>
<p>苦瀬会長</p>	<p>次回は、これをブラッシュ・アップしていくという議論をする，このような理解でよろしいですか。次回は4月になるとのことですので、よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、本日の議題はこれで全て終了となります。委員の皆さま方には、お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございました。</p> <p>これをもちまして、本日の審議会を終了させていただきます。</p> <p>ありがとうございました。</p>
<p>平成 年 月 日</p> <p style="text-align: right;">委 員 長 _____</p> <p style="text-align: right;">議事録署名人 _____</p> <p style="text-align: right;">議事録署名人 _____</p>	